

⑬ 茂原公園開拓の追憶碑



茂原公園は日蓮聖人の聖地鷲山寺藻原寺の名刹に接続する道表山を背景とするゆるやかな山波にめぐらされた風光明媚の観光地山頂の亀甲松は枯損したるも山麓の源頼朝ゆかりの酒盛塚の巨松あり山裾の新堰は藻原寺の荒井養寿師の時代寺領と高師耕地の旱害をまもるため築いたもので大正六年に郡下の牛馬商の浅野細矢堀口高吉氏が発起して数百人を動員して堰の周囲を覆う竹藪を伐り拓き競馬場を設けたこともあった。当時横堀順次郎 鶴岡八十三 白井新一郎 高吉勤之助等の有志がウメ サクラ ツツジなど数千株を植樹して堰の中央に弁天様を祀って観景を添え終戦後野島誠等の亀齡会の人々が協力して茂原公園と称するに至った郷賢顕彰会はこの公園を飾るに郷土出身の先覚者の英魂を祀って人心の作興に寄与せんと念願してさきに幕末の儒者東條一堂翁の頌徳碑教育家麻生誠一先生の胸像を建立し昭和三十一年には平和外交官石井菊次郎翁の報徳碑を秀麗なる道表山嶺に建立したこの土地は高師八幡神社の所有地で総代人はこの計画を快諾して敷地を提供してくれた。昭和三十一年には千葉寺境内にあったわが国鉱山学の権威横堀治三郎翁の頌徳碑と普選を提唱した高潔な政治家関和知先生の胸像台座石を移建する計画を発表した藻原寺住職戸村日玉師はこの企てに賛成、境外の松並木絶景の地を選んで建設の敷地に提供され同三十二年には横堀翁、同三十三年には関先生の頌徳碑をあいだいて完成した。この霊域をめぐって建つ頌徳碑は何れも一身を国家の繁栄にささげた先覚者その精神は永遠に亡びず英魂の鎮まる所地に光輝あり日蓮上人の遺跡鷲山寺藻原寺と共に世人の讃仰の的とならん

昭和三十三年三月二十五日 郷賢顕彰会建之 高忠良一謹書

(裏側には関先生頌徳碑賛助者名が刻まれている) 厚み14.5cm 最大幅 88cm 高さ206cm